

平成30年度 ちばっ子「学力向上」総合プラン《評価表》

アクション1 興味ワクワク「読書・体験学習」チャレンジプラン (「読書活動や体験活動を通じた学習意欲の向上」の視点)

◎子どもたちの学習意欲を高めるための取組が充実しているか

事業名	
11	確かな学びの早道「読書」事業の推進
12	優良・優秀学校図書館認定事業の実施
13	「小・中・高連携の特別授業」による体験学習の促進
14	特別非常勤講師配置事業の推進
15	「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業の推進
16	学びの「総合力・体験力」コンテストの開催

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者の自己評価		評価コメント	評価
ア	学校図書館が様々な学習活動で活用され、学力向上や読書活動推進の取組の充実につながっているか。 <p style="text-align: center;"><u>11-b</u> <u>12-a</u></p>	推進地域や実践協力校を中心とした取組が、公開授業等を通して広く周知されていることが分かる。今後、学校図書館の「学習センター」「情報センター」の機能のより一層の充実を期待したい。	<u>b</u>
イ	子どもたちの体験学習の機会の充実が図られているか。 <p style="text-align: center;"><u>13-a</u> <u>14-b</u> <u>15-a</u> <u>16-b</u></p>	各事業ともに、報告書やアンケートにおいて、大変良好な回答が寄せられるなど、子どもたちにとって貴重な体験学習の機会が提供されていることがうかがえる。	<u>a</u>
ウ	学校等で体験学習の重要性についての理解が図られているか。 <p style="text-align: center;"><u>13-a</u> <u>14-b</u> <u>16-b</u></p>	特別非常勤講師配置事業におけるアンケート結果や、学びの「総合力・体験力」コンテストにおいて応募作品が増えたこと等から、体験学習の重要性が理解されていると言える。	<u>b</u>
エ	学校図書館の活用や体験学習により、子どもたちの学習意欲が向上しているか。 <p style="text-align: center;"><u>11-b</u> <u>12-b</u> <u>13-b</u> <u>14-b</u> <u>15-a</u> <u>16-b</u></p>	各事業内容が、子どもたちにとって興味・関心の高いものであり、それが学習意欲の向上につながっている。今後、新学習指導要領に対応する特別非常勤講師の配置に期待したい。	<u>b</u>

○「アクション1」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

各学校における学校図書館の活用の工夫や、体験活動の機会が増えていること、当該校のアンケート・感想等から、各事業が子どもたちの学習意欲の向上につながっていることが分かる。

○「アクション1」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・各観点の全ての評価は妥当である。
- ・子どもたちに様々な体験学習の機会が提供されており、それらが学習意欲の向上につながっている。

◇「アクション1」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア （11・12）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・学校図書館の活用が進んでおり、物的な環境も充実している。今後は、人的環境の更なる充実が望まれる。また、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての活用が有効になされている事例をHP等を通じて公表するなど、各学校への周知方法の工夫改善に期待したい。

観点イ （13・14・15・16）

- ・「a」評価は妥当である。
- ・「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業等、体験学習の機会が充実している。教える高校生にとっても、教わる側の小中学生にとっても教育効果が高く、今後も期待する取組である。
- ・学びの「総合力・体験力」コンテストは、事業内容を工夫したことで、事業の周知が図られた。今後は、コンテストの趣旨の理解促進を更に進めることに期待する。

観点ウ （13・14・16）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・特別非常勤講師について、各学校の満足度が高いことがアンケート結果から分かる。
- ・体験学習の重要性について理解が進んでいる。今後、新学習指導要領に対応する分野の配置に期待したい。

観点エ （11・12・13・14・15・16）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・学校図書館の活用、「小・中・高連携の特別授業」による体験学習、「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業等の充実により、子どもたちの学習意欲が向上している。
- ・子どもたちの学習意欲の向上のためには、学校図書館の効果的な活用が重要であるとの共通理解が進み、それが活用方法の工夫改善につながっている。

アクション2 「子どもたちの夢・チャレンジ」サポートプラン
 (「子どもたちの主体的な学びを支える取組の充実」の視点)

◎子どもたちの学習を充実させるための取組の成果が上がっているか

事業名	
21	千葉県学習サポーター派遣事業の充実
22	「家庭学習のすすめ」サイトの活用促進
23	「ちばっ子チャレンジ100」及び「学びの突破口ガイド」の活用（小学校）
24	「ちばのやる気」学習ガイドの活用（中学校）
25	「SSH」などの活用による理数教育の充実
26	科学の甲子園・科学の甲子園ジュニア大会の開催
27	「SGH」の活用によるグローバル教育の充実
28	子どもたちの学びを支える英語教育強化推進事業の実施
29	進学指導重点校における教育活動の充実と普及

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者の自己評価		評価コメント	評価
ア	子どもたちの学習を充実させるための調査・研究・指導がなされているか。 <u>21-a</u> <u>25-b</u> <u>26-b</u> <u>27-a</u> <u>28-b</u> <u>29-b</u>	各事業の当該校の取組から、様々な工夫改善が成果につながっている。各指定校の研究成果の更なる普及を通して、県内の各学校に広まることを期待したい。	<u>b</u>
イ	子どもたちの学習を充実させるための調査・研究に関する啓発がなされているか。 <u>26-b</u>	科学の甲子園、科学の甲子園ジュニアは、子どもにとって大変魅力的であり、理数教育の充実・啓発につながっていると言える。今後、更に参加校が増え、県内に広まることを期待したい。	<u>b</u>
ウ	子どもたちのための学習資料の活用につながる取組は充実しているか。 <u>22-b</u> <u>23-a</u> <u>24-b</u>	全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた学習資料の提供は、「ちばっ子チャレンジ100」や「ちばのやる気」学習ガイドの活用促進にもつながる良い取組である。ぜひ継続していただきたい。	<u>b</u>
エ	子どもたちのために作成した学習資料の活用状況はどうか。 <u>22-b</u> <u>23-a</u> <u>24-b</u>	ホームページのアクセスや、アンケートによる活用例から、各学校で学習資料がよりよく活用されていることが分かる。内容をより充実させて、それが活用促進につながることを期待したい。	<u>b</u>

○「アクション2」の関係者評価（学力向上PT会議コメント）

子どもたちの学校や家庭での学習環境を充実するための工夫が各事業に見られる。それらのよさを広く県民に普及するための工夫改善に期待したい。

各事業の活用状況等を調査するアンケートの実施時期を検討し、本会議における評価の根拠資料することができると、更に評価の妥当性が上がる。

○「アクション2」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・各評価は概ね妥当である。学力向上PT会議による評価は、関係課による評価であるため、全体的に厳しい評価となってしまう可能性もある。「ちばっ子チャレンジ100」や「ちばのやる気」学習ガイド等が大変充実していること等から、「b」評価は妥当ではあるものの、「a」評価に近い観点もある。

◇「アクション2」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア (21・25・26・27・28・29)

- ・「b」評価は妥当である。
- ・幅広い様々な事業において、十分な成果をあげている。学校のみならず、家庭や地域、関係機関への広報や周知の更なる工夫に期待したい。
- ・英語教育強化推進事業では、研修会を通じた授業改善の具体的な方策の周知が、各学校の指導の工夫改善につながっている。今後、研修会の更なる充実に期待したい。

観点イ (26)

- ・「b」評価は妥当である。
- ・科学の甲子園・科学の甲子園ジュニアは、理数教育の充実及び啓発につながる素晴らしい取組である。その良さを周知するとともに、参加校数増を図るための工夫に期待したい。
- ・本観点の評価は「科学の甲子園」のみによるものであり、他の事業を通じた本観点の評価ができない。本観点に関して、評価の観点そのものを見直す、もしくは他の事業を本評価の対象とする等、より幅広い観点で評価することを検討してはどうか。

観点ウ (22・23・24)

- ・「b」評価は妥当である。
- ・県教育委員会の積極的な広報により、「ちばっ子チャレンジ100」、「学びの突破口ガイド」及び「ちばのやる気」学習ガイドの活用状況は改善されており、子どもたちの学習の充実につながっている。したがって、「a」評価に近い「b」評価である。
- ・新学習指導要領や県の実態を踏まえた学習資料の充実に期待したい。

観点エ (22・23・24)

- ・「b」評価は妥当である。
- ・「ちばっ子チャレンジ100」や「ちばのやる気」学習ガイドは、プリントアウトをして紙媒体で保管し、活用している学校もあるため、ホームページのアクセス数のみでは評価が難しいという課題もあった。今回、学力向上交流会での参加者アンケートを通して、実際の活用状況や活用例を把握できたので、それらを今後の事業の充実につなげてほしい。
- ・「ちばのやる気」学習ガイドでは、ホームページの問題データベースにアクセスするために、IDやパスワードが必要となるため、誰もが簡単に利用できるわけではない。来年度から改訂のためのワーキンググループを開催するとのことだが、新しい学習ガイドの活用を促進するための工夫にも期待したい。

アクション3 子どもいきいき「授業力アップ」プラン
 (「授業力の向上による学びの深化」の視点)

◎授業力向上の取組の成果が上がっているといえるか

事業名	
31	「ちばっ子の学び変革」推進事業の実施
32	ちば「授業練磨の公開日」の実施
33	「魅力ある授業づくりの達人」認定・活用事業の推進
34	「学力向上交流会」の開催
35	「私の授業レシピ(秘訣・秘伝)」活用事業の推進

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者の自己評価		評価コメント	評価
ア	学力向上施策の理解が図られ、授業改善のための取組が充実したものになっているか。 <u>31-a</u> <u>32-b</u> <u>34-b</u>	学力向上交流会は、学力向上施策の理解や、教員の授業改善に向けた意識向上に大変有効であると言える。事業間の連携を図り、更なる充実に期待したい。	<u>b</u>
イ	教師力・授業力向上をけん引する人材の育成・発掘ができているか。 <u>33-a</u>	「達人」の全体研修会は「主体的・対話的で深い学び」についての理解を深め、若手教員への指導・助言に生かすことができる内容である。また、新学習指導要領を踏まえた達人の認定により、内容が充実し、教員の授業力の向上につながると期待できる。	<u>a</u>
ウ	教師力・授業力向上のための資料提供は十分にできているか。 <u>31-a</u> <u>35-b</u>	各事業を通して「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた資料提供ができており、授業力の向上につながっていると言える。新しい実践モデルプログラムを活用した授業改善に期待したい。	<u>b</u>
エ	授業改善や授業力向上を図る取組の成果が上がっているか。 <u>31-b</u> <u>32-b</u> <u>33-b</u> <u>34-a</u>	各事業における参加者アンケートから、授業の工夫改善に向けた教員の意識が向上していることが分かる。「ちばっ子の学び変革」の研究指定校の研究成果の普及を通して、県内の各学校の更なる授業改善や授業力向上が期待できる。	<u>b</u>

○「アクション3」の関係者評価(学力向上PT会議コメント)

各事業が充実しており、教員の授業力向上につながっている。今後、新学習指導要領を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が県内の各学校に広がることを期待したい。

- 「アクション3」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）
- ・評価は適切であり，各観点の評価は妥当である。

◇「アクション3」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア （31・32・34）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・学力向上交流会は，県の学力向上施策の理解のために大変有効である。また，分科会では，学力向上施策を活用した実践例を基に議論したり，公開授業について議論したりするなど大変充実しているため，参加した教員の授業改善に向けた意識の向上につながっている。

観点イ （33）

- ・「a」評価は妥当である。
- ・「魅力ある授業づくりの達人」の全体研修会は，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善についての演習を通して，達人の育成を図るとともに，達人の授業改善への意識を高めることにつながる。また，若手教員への指導助言や模範となる授業の公開を通して，若手教員の授業力向上だけでなく，達人自身も更に授業力を高めることができる。来年度，新たに多くの達人が認定されるため，全体研修会の内容の更なる充実に期待したい。

観点ウ （31・35）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・「ちばっ子の学び変革」推進事業について，セミナーや公開研究会を通して研究指定校の実践やその成果が普及されている。学力向上交流会や授業練磨の公開日等とも連携を図り，さらに広く普及することも検討してはどうか。
- ・県内の学校が，新しい実践モデルプログラムを活用して授業改善を図るためにも，様々な研修会を通して周知することも必要である。

観点エ （31・32・33・34）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・各事業のアンケート結果から，各事業が教員の授業改善への意識向上につながっていると分かる。
- ・「ちばっ子の学び変革」推進事業では，来年度の公開研究会を通じた研究指定校の授業実践やその成果の普及に期待したい。

アクション4 「評価・改善」アクティブプラン

(「学力向上に係る取組の適切な評価・改善の推進」の視点)

◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」の「評価・検証システム」が有効に機能しているか

事業名	
41	「全国学力・学習状況調査」のデータ及び分析ツールの活用促進
42	「学力・学習状況」検証事業の推進
43	「学力向上推進会議」の開催

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者の自己評価		評価コメント	評価
ア	<p>全国学力・学習状況調査の活用に向けた取組の成果が上がっているか。</p> <p style="text-align: center;"><u>41-b</u> <u>42-b</u></p>	<p>全国学力・学習状況調査の概要をまとめたリーフレットは、調査対象学年だけでなく学校全体として課題を捉えるために大変有効である。分析ツールの活用に関するアンケートの実施時期について検討することも必要である。</p>	<u>b</u>
イ	<p>「検証協力校」において、学力向上に向けた取組が充実したものになっているか。</p> <p style="text-align: center;"><u>42-a</u></p>	<p>各検証協力校の授業改善が充実しており、子どもの学力向上につながっていると言える。本年度までの検証協力校の取組の成果の普及や、新たな第3期の検証協力校の取組の充実に期待したい。</p>	<u>a</u>
ウ	<p>学力向上推進会議の企画・運営方法は適切であり、学力向上施策の充実につながっているか。</p> <p style="text-align: center;"><u>43-a</u></p>	<p>学力向上推進会議や学力向上プロジェクトチーム会議での評価や事業に対するコメントが、各事業内容の改善につながり、より充実してきていることがうかがえる。</p>	<u>a</u>

○「アクション4」の関係者評価（学力向上PT会議コメント）

全国学力・学習状況調査の分析と活用が各学校に定着しつつあり、検証協力校を中心として様々な工夫改善を行い、成果が表れている。今後は、継続的な取組とその成果の普及、そして新たな検証協力校の取組の充実とその検証に期待したい。

○「アクション4」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・適切な評価がなされており，各観点の評価は妥当である。
- ・「学力・学習状況」検証事業では，授業改善を軸とした第3期の検証協力校の取組に期待したい。「全国学力・学習状況調査」の結果データや分析ツールの活用について，有効的な活用方法を県内に周知することも必要である。効果的な取組が各学校に広く周知され，授業実践や授業の工夫改善につながることに期待したい。

◇「アクション4」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア（41・42）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・分析ツールの活用が各学校に浸透してきており，有効に活用している市町村教育委員会や学校も多い。そうした有効な活用方法を県内の学校に広く周知することが，更なる活用の促進につながる。
- ・第3期の検証協力校については，検証の視点を予め設定し，学校内で共通理解を図ることが重要である。その検証のための資料の一つとして，全国学力・学習状況調査の質問紙の活用も考えられる。第3期の検証協力校の取組に期待したい。

観点イ（42）

- ・「a」評価は妥当である。
- ・検証協力校では，教職員が「チーム学校」として，学力向上に向けた様々な取組がなされている。また，その成果を学力向上交流会で公表している。ちばっ子「学力向上」総合プランの事業同士の連携がしっかりとできている。

観点ウ（43）

- ・「a」評価は妥当である。
- ・多くの事業を俯瞰的に見て，体系的に評価することは，評価の客観性・妥当性を高めることにつながるため，学力向上推進会議は大変有意義かつ重要な会議である。本会議及びPT会議における評価やコメントを各事業の工夫改善に生かすことで，事業内容の更なる充実が期待される。
- ・委員が全ての事業を視察することは難しい。学力向上推進会議の目的や意義を含め，それぞれの事業内容について，委員が的確に理解するために，会議や視察の方法について，工夫を重ねることを期待したい。

アクション5 「教師カトップ」アクティブプラン
 (「信頼される質の高い教員の育成」の視点)

◎教師力向上の取組の成果が上がっているといえるか

事業名	
51	「千葉県教職員研修体系」に基づく研修事業の充実・推進
52	「若手教員育成推進員」活用事業の推進
53	「教員の資質能力向上事業」の推進

評価 (a : 十分満足できる b : 概ね満足できる c : 不十分である)

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者の自己評価		評価コメント	評価
ア	教職員研修の改善が図られ、充実したものとなっているか。 <p style="text-align: center;"><u>51-a</u> <u>53-b</u></p>	新学習指導要領や今日的な課題に即した研修が充実しており、教師力の向上につながっていると言える。また「若手教員育成推進員」の豊かな経験や専門的な知識からの指導も工夫されており、若手教員の育成に大変有効であると分かる。	<u>b</u>
イ	教師力向上をけん引する人材の発掘がなされ、若手教員の育成を図る取組の成果が上がっているか。 <p style="text-align: center;"><u>52-a</u> <u>53-b</u></p>	「千葉県・千葉市教員等育成指標」は信頼される質の高い教員の育成のために大変重要な役割を果たすものであり、指標を踏まえた「千葉県教職員研修体系」や体系を反映した研修に大いに期待したい。	<u>b</u>
ウ	教師力向上を図る取組の成果が上がっているか。 <p style="text-align: center;"><u>51-a</u> <u>52-a</u> <u>53-b</u></p>	研修参加者のアンケート結果は大変良好であり、教員が主体的に研修に参加し、かつ研修の内容が教師力・授業力の向上につながると実感していることが分かる。	<u>a</u>

○「アクション5」の関係者評価 (学力向上PT会議コメント)

増加傾向にある若手教員の資質能力の育成のためにも、「千葉県・千葉市教員等育成指標」を踏まえた「千葉県教職員研修体系」と、体系を反映した研修、更に新学習指導要領に即した研修の充実が大変重要である。また、「教員の働き方改革」の視点も併せ持ち、各研修の精選と充実を望みたい。

- 「アクション5」の第三者評価（学力向上推進会議コメント）
- ・各観点の評価は妥当である。

◇「アクション5」の各観点に対する学力向上推進会議委員の意見

観点ア（51・53）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・教職員のキャリアステージに沿った様々な研修が企画運営されている。それらの研修が、信頼される質の高い教職員の育成につながっている。研修の参加者のアンケート結果からも、各研修の内容が充実していることが分かる。
- ・今後も、新学習指導要領や学校現場のニーズに対応した研修の充実に期待したい。
- ・指標に基づいた研修体系の組み直しや教員の資質能力向上事業について、次年度に向けた準備が進められているということから、その点を考慮して「b」評価とせざるを得ないのだろうが、各事業は大変充実している。

観点イ（52・53）

- ・「b」評価は妥当である。
- ・若手教員育成推進員の指導や助言が、若手教員の資質能力の育成に大変有効である。今後も、若手教員の大量採用が続くことが予想されるため、若手教員育成推進員の役割が更に重要となってくる。引き続き若手教員のニーズを的確に把握し、研修を企画・運営されていくことに期待したい。

観点ウ（51・52・53）

- ・「a」評価は妥当である。
- ・研修参加者のアンケート結果から、各研修の内容が教師力や授業力の向上につながると、参加者自身が実感していることが分かる。
- ・来年度に向けて新たな研修体系が整いつつあるため、現状と来年度の結果を比較するという観点も必要になってくるのではないかと。

<総合評価> 「ちばっ子『学力向上』総合プラン」

◎「ちばっ子『学力向上』総合プラン」は各学校における児童生徒の学力向上の取組の活性化につながっているといえるか

※ ちばっ子「学力向上」総合プランの全体を評価する。

評価（a：十分満足できる b：概ね満足できる c：不十分である）

評価の観点		学力向上PT会議による評価	
事業番号-事業担当者の自己評価		評価コメント	評価
ア	各プランの評価が適正になされているか。 全体	各事業の評価方法を工夫するなど、各事業の評価の適正化が図られていると言える。評価のためのアンケートの時期や評価の観点についても修正を検討すると、更なる適正化を図ることができるのではないか。	<u>b</u>
イ	前年度の評価を生かした今年度の改善の成果はどうか。 全体	昨年度の評価や委員のコメントを踏まえ、各事業内容を工夫改善しており、子どもの学力向上につながっていると分かる。	<u>a</u>
ウ	各アクションを総括しての達成度はどうか。 全体	各事業は概ね満足できる状況である。新学習指導要領を踏まえた事業や、内容や方法の見直しを図った事業もあり、今後も継続した事業の充実や工夫改善に期待したい。	<u>b</u>

○ちばっ子「学力向上」プラン全体の関係者評価（学力向上PT会議コメント）

各事業の見直しや修正が適時始まってきており、進展が図られていると言える。今後は、各事業の充実とともに、アンケートの時期や各事業間の更なる連携についても検討し、ちばっ子「学力向上」総合プランの事業全体が充実していくことを期待したい。

○ちばっ子「学力向上」プラン全体の第三者評価（学力向上推進会議コメント）

- ・各観点における評価は妥当であり、評価結果を反映しながら各事業の見直しや修正が行われている。

◇ちばっ子「学力向上」プラン全体に対する学力向上推進会議委員の意見

- ・学力交流会の視察や、事業担当者の評価資料等から、若年層の教員が着実に成長していることがうかがえる。30代、40代のミドルリーダーのスキルアップに期待したい。
- ・アクション1～5の個々の事業が、アクションの垣根を越えて相互に効果を発揮している状況が生まれており、今後の事業の進展と評価方法の工夫（例えば追跡調査や相関等）に期待したい
- ・年度内に評価のためのデータをそろえ、評価が行えるシステムは、時間的な制約や限界もあるが、ちばっ子「学力向上」総合プランの事業スケジュールからも、評価計画は妥当である。
- ・各委員の事業視察、学校訪問等はちばっ子「学力向上」総合プランの正当な評価や新しい意義の発見などにつながっており有効である。
- ・「お兄さん、お姉さんと学ぼう」事業は、教える高校生、教わる小中学生の子どもたちや学校によい効果を及ぼすだけでなく、「地域の子供を地域で育てる」というよさを感じさせる。
- ・学習指導要領の移行期間であることを考えれば、各事業の評価は今後向上すると思われる。また、新事業である「指導主事等専門研修」は新しい教育課程の実現において重要な事業であろう。